

# 令和7年度「全国学力・学習状況調査」の結果 —分析から見てきた成果・課題と今後の取組について—

|       |            |
|-------|------------|
| 区 名   | 西区         |
| 学 校 名 | 大阪市立九条南小学校 |
| 学校長名  | 伊藤 浩史      |

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和7年4月17日（木）に、6年生を対象として、「教科（国語・算数・理科）に関する調査」と「児童質問調査」を実施いたしました。

大阪市教育局では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育局の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

## 1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

## 2 調査内容

### (1) 教科に関する調査

- ・国語
- ・算数
- ・理科

### (2) 質問調査

- ・児童に対する調査
- ・学校に対する調査

## 3 調査の対象

- ・国・公・私立学校の小学校第6学年の原則として全児童
- ・大阪市立九条南小学校では、第6学年 47名

## 令和7年度「全国学力・学習状況調査」結果の概要

平均正答率では、国語科・理科ともに大阪市平均、全国平均を下回ったが、算数科においては、大阪市平均、全国平均と同じだった。  
国語科では、全国平均を7.8ポイント下回り、全ての領域において全国平均を下回った。算数科では、大阪市平均、全国平均と同じで、「図形」「変化と関係」以外の領域において全国平均を下回った。理科では、全国平均を4.1ポイント下回り、「地球」以外の領域において全国平均を下回った。  
無回答率について、国語科のポイントは、3.3で全国と同じ、算数科のポイントは、2.2で全国より1.4ポイント下回り、理科のポイントは、2.6で全国より0.2ポイント下回った。

## 分析から見てきた成果・課題

教科に関する調査より

〔国語〕全ての領域において、全国平均を下回った。しかし「書くこと」においては、大阪市平均と同じで、書く力については定着していることがうかがえる。

〔算数〕「図形」「変化と関係」において、大阪市平均、全国平均を上回り、定着していることがうかがえる。しかし、その他の領域においては、大阪市平均、全国平均を下回っていることから、今後の課題となる。

〔理科〕「地球」を柱とする領域については、大阪市平均を上回ったが、その他の領域においては、大阪市平均、全国平均を下回っていることから、今後の課題となる。

質問調査より

生活リズムが安定し、協力することの大切さや地域や社会についての関心が高まってきている。また、自己肯定感も高まり、人の役に立つ人間になりたいという思いを強くもっている。放課後学習や校庭開放に積極的に参加し、元気に運動場でボールを追いかけたり走り回ったりする姿から、学校が楽しいと感じる子どもは、結果からだけでなく肌で感じるができる。しかし、読書に対する関心が低く今後取り組む課題が明確になっている。

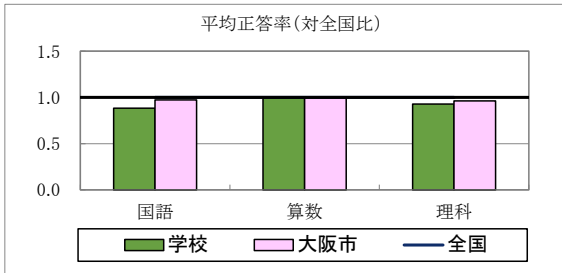
## 今後の取組(アクションプラン)

国語科、算数科を中心に、子どもの実態に即した個別最適な学びを保障するために、学習効果が最も高いと考えられる学習形態を取り入れている。理科科、音楽科においては、専科体制を取り、より専門的に学習を進めることができるようにしている。本物に触れる体験を通してオリンピックによる出前授業や地域資源を活用した「HUGミュージアム」での調理体験学習、地場産業である「ねじ」工場の見学やゲストティーチャーによる出前授業等、キャリア教育の視点から教科横断的な取り組みを進めている。教職員によるおすすめの本の紹介「わくわくお話プレゼント」や地域の方による「よもよもお話会」、毎日の図書館開放を継続していくことで、読書に親しみ豊かな心の育成をはかっていきたい。

## 【 全体の概要 】

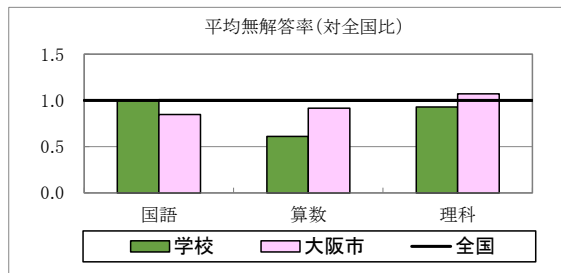
### 平均正答率（％）

|     | 国語   | 算数   | 理科   |
|-----|------|------|------|
| 学校  | 59   | 58   | 53   |
| 大阪市 | 65   | 58   | 55   |
| 全国  | 66.8 | 58.0 | 57.1 |



### 平均無解答率（％）

|     | 国語  | 算数  | 理科  |
|-----|-----|-----|-----|
| 学校  | 3.3 | 2.2 | 2.6 |
| 大阪市 | 2.8 | 3.3 | 3.0 |
| 全国  | 3.3 | 3.6 | 2.8 |



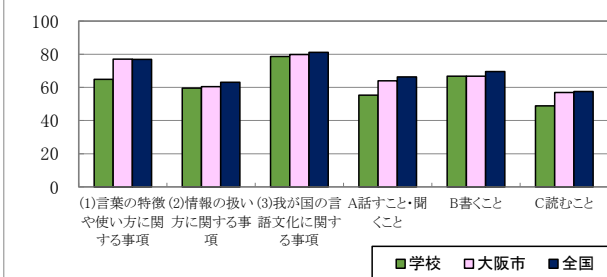
## 【 国 語 】

| 学習指導要領<br>の内容          | 対象<br>設問数<br>(問) | 平均正答率(%) |      |      |
|------------------------|------------------|----------|------|------|
|                        |                  | 学校       | 大阪市  | 全国   |
| (1)言葉の特徴や使い<br>方に関する事項 | 2                | 64.9     | 77.1 | 76.9 |
| (2)情報の扱い方に<br>関する事項    | 1                | 59.6     | 60.4 | 63.1 |
| (3)我が国の言語文<br>化に関する事項  | 1                | 78.7     | 79.9 | 81.2 |
| A 話すこと・聞くこと            | 3                | 55.3     | 64.0 | 66.3 |
| B 書くこと                 | 3                | 66.7     | 66.7 | 69.5 |
| C 読むこと                 | 4                | 48.9     | 56.9 | 57.5 |

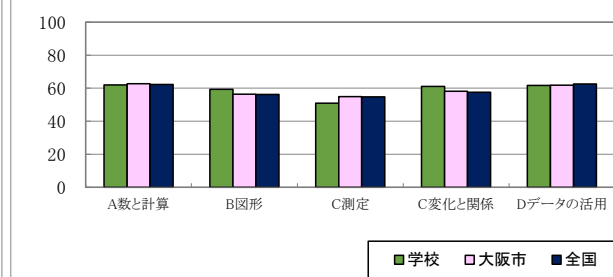
## 【 算 数 】

| 学習指導要領<br>の領域 | 対象<br>設問数<br>(問) | 平均正答率(%) |      |      |
|---------------|------------------|----------|------|------|
|               |                  | 学校       | 大阪市  | 全国   |
| A 数と計算        | 8                | 62.0     | 62.7 | 62.3 |
| B 図形          | 4                | 59.4     | 56.4 | 56.2 |
| C 測定          | 2                | 51.0     | 54.9 | 54.8 |
| C 変化と関係       | 3                | 61.1     | 58.2 | 57.5 |
| D データの活用      | 5                | 61.7     | 61.9 | 62.6 |

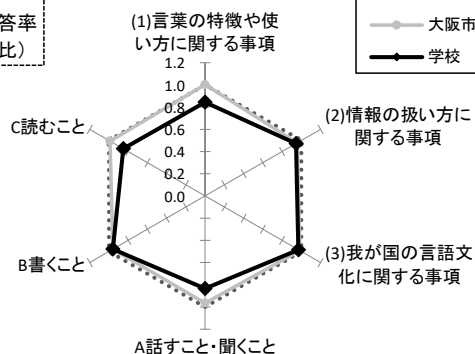
国語 内容別正答率(学校、大阪市、全国)



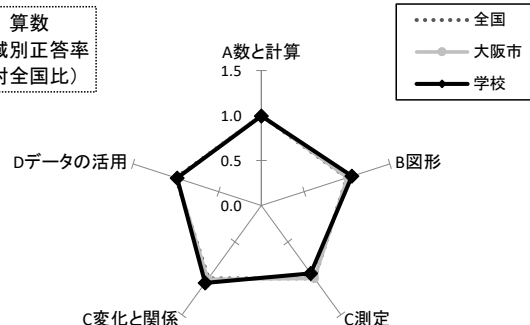
算数 領域別正答率(学校、大阪市、全国)



国語  
内容別正答率  
(対全国比)

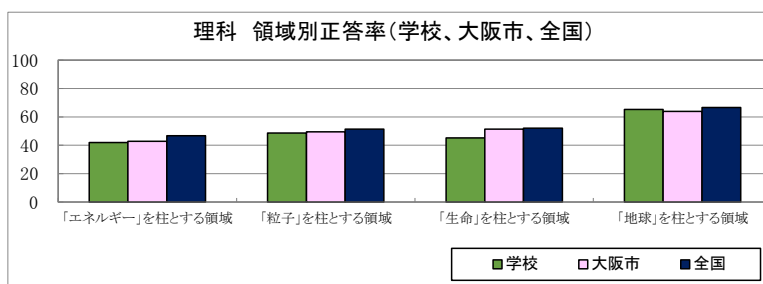


算数  
領域別正答率  
(対全国比)

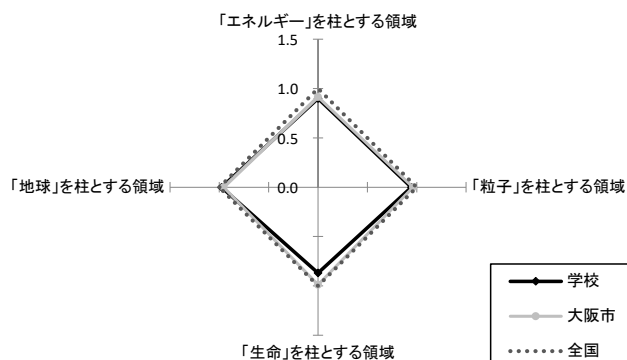


## 【 理科 】

| 学習指導要領<br>の区分・領域 | 対象<br>設問数<br>(問)   | 平均正答率(%) |      |      |
|------------------|--------------------|----------|------|------|
|                  |                    | 学校       | 大阪市  | 全国   |
| A<br>区<br>分      | 「エネルギー」を<br>柱とする領域 | 42.0     | 42.7 | 46.7 |
|                  | 「粒子」を<br>柱とする領域    | 48.6     | 49.5 | 51.4 |
| B<br>区<br>分      | 「生命」を<br>柱とする領域    | 45.2     | 51.4 | 52.0 |
|                  | 「地球」を<br>柱とする領域    | 65.2     | 63.8 | 66.7 |



理科 領域別正答率(対全国比)



## 児童質問より

質問番号

質問事項

1

朝食を毎日食べていますか

1

2

3

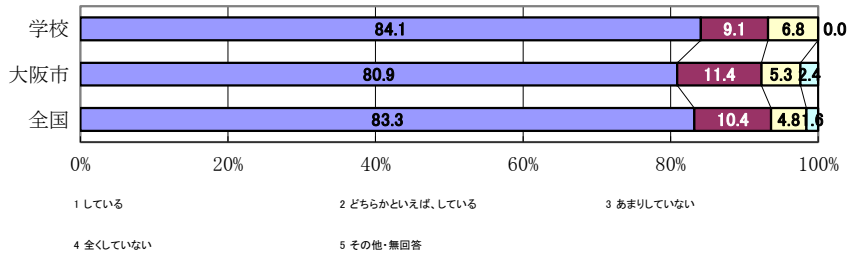
4

5

6

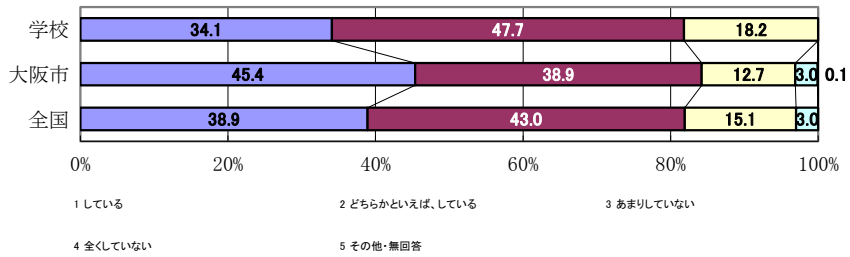
7

8



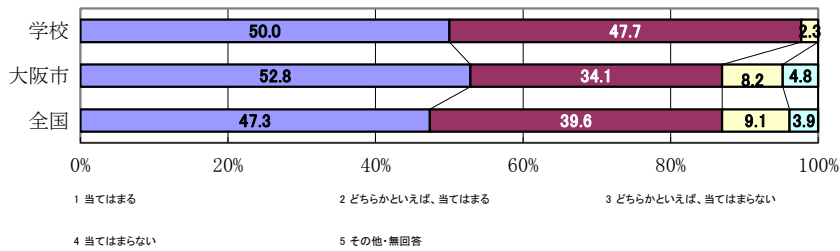
2

毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか



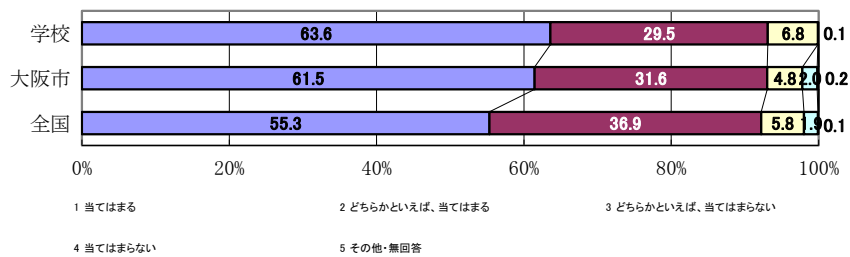
5

自分には、よいところがあると思いますか



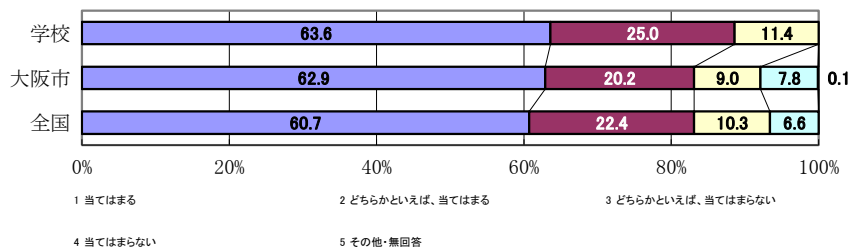
6

先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか



7

将来の夢や目標を持っていますか



## 学校質問より

質問番号

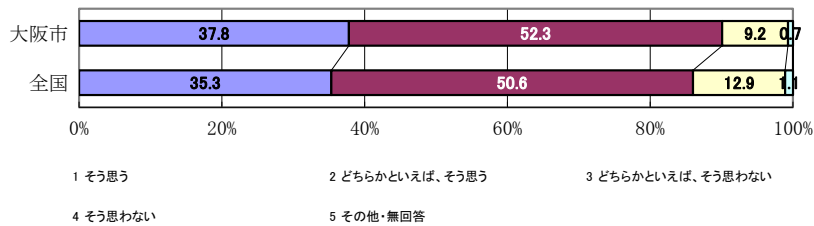
質問事項

8

調査対象学年の児童は、授業中の私語が少なく、落ち着いていると思いますか

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10

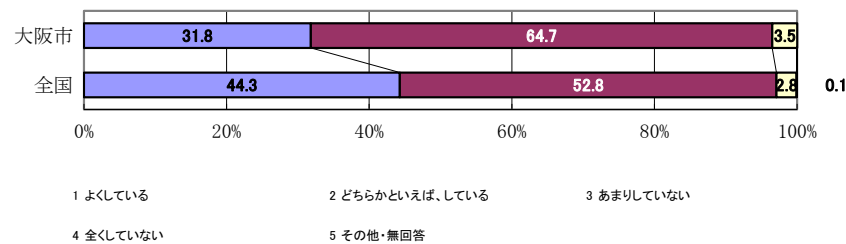
学校 「どちらかといえば、そう思う」を選択



15

児童の姿や地域の現状等に関する調査や各種データなどに基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立していますか

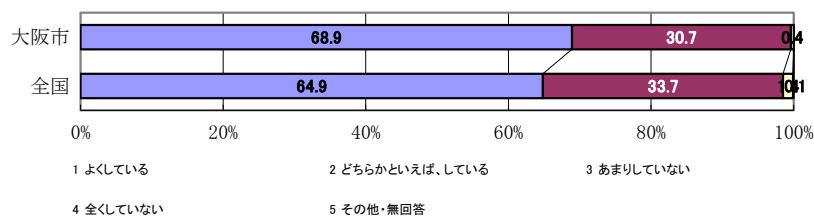
学校 「よくしている」を選択



18

授業研究や事例研究等、実践的な研修を行っていますか

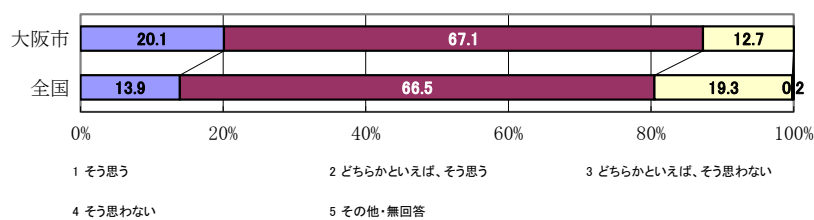
学校 「よくしている」を選択



26

調査対象学年の児童は、授業において、自らの考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して、発言や発表を行うことができていると思いますか

学校 「どちらかといえば、そう思う」を選択



27

調査対象学年の児童は、学級やグループでの話し合いなどの活動で、自分の考えを相手にしっかりと伝えることができていると思いますか

学校 「どちらかといえば、そう思う」を選択

